



業界初となる工業系雑品の
処理に特化したスーパーシュレッダー。
今年12月からの販売に向けて現在も最適かつ
効率的な技術導入を追求している。



コンプレッサー（写真上部）から適度なサイズの
アルミ（左下）、鉄（中央下）、銅（右下）を抽出

製品等に関する問い合わせ先

近畿工業(株)営業本部

〒650-0023 神戸市中央区栄町通4-2-18

電話 078-351-0770

<http://www.kinkikogyo.co.jp/company/>

近畿工業(株)

市場ニーズ反映し工業系雑品に特化

破碎機・選別機メーカーの近畿工業(株)（本社＝兵庫県三木市別所町巴20番地、和田直哉社長）は工業系雑品リサイクルの破碎処理に特化した「スーパーシュレッダー」を開発し、今年12月から見学を受け付けるのに合わせ、本格的に営業販売を展開する。

環境変化に対応した新機種を開発

破碎・選別技術に定評のある近畿工業が新たに市場へ投入する「スーパーシュレッダー」は同社のラインナップである捻碎機の技術を応用したもので、ダイナモ、セルモーター、コンプレッサーなどのモーター類に加え、銅含有率の高い高付加価値スクラップなど業界初となる工業系雑品の処理に特化している。

一昨年に開設した研究所でのシミュレーションシステムで幾度となく解析を重ねながら、複合物の分離性をより高めることを目的に設計された新機種の代表的な特徴は、①処理物を分解することなく直接投入②破碎効率の向上で非鉄金属の抱き込み、さらには品質要求が年々厳しくなっていること、存続の有無を危惧する声が高まっている。

本来が鉄・非鉄スクラップの複合体である雑品は処理困難物であり、手作業での解体には時間と手間を要する。その中で、同社が業界初となる工業系雑品の処理に特化した新機種開発へ至った背景には金属リサイクル業界からの雑品マーケットの存続に対する危機感にある。中国景気の後退により、資源需要が落ち込み、さらには品質要求が年々厳しくなっていることで、存続の有無を危惧する声が高まっている。

コンプレッサー（写真上部）から適度なサイズのアルミ（左下）、鉄（中央下）、銅（右下）を抽出

■販売開始前から見学や問い合わせが急増

同社が業界初となる工業系雑品の処理に特化した新機種開発へ至った背景には金属リサイクル業界からの雑品マーケットの存続に対する危機感にある。中国景気の後退により、資源需要が落ち込み、さらには品質要求が年々厳しくなっていることで、存続の有無を危惧する声が高まっている。

本来が鉄・非鉄スクラップの複合体である雑品は処理困難物であり、手作業での解体には時間と手間を要する。その中で、同社が業界初となる工業系雑品の処理に特化した新機種開発へ至った背景には金属リサイクル業界からの雑品マーケットの存続に対する危機感にある。中国景気の後退により、資源需要が落ち込み、さらには品質要求が年々厳しくなっていることで、存続の有無を危惧する声が高まっている。

寸法は高さ3715mm、幅1900mm、投入口は1000mm。非鉄選別機などのメンテナンスも容易に行える。プラントを組み合わせても、広い場所を要しない利点を持つ。金属リサイクル業界全体に広く普及することを目的に、最適な鉄・非鉄の自動選別ラインを組み合わせても1億円に届かない価格での販売を検討している。

既存の非鉄選別機などや同社製のプラントを組み合わせば、鉄・非鉄・アルミ・ステンレスがそれぞれ自動的に選別される仕組みだ。1時間当たりの処理量は約2トンを誇り、充分に処理能力を発揮できる。また、本体部

込みや絡まりを抑制③破碎後のダスト成分を分離④破碎物の速やかな抽出によって、過粉碎を防止し、破碎負荷の低減ーが挙げられる。

コンプレッサー内部のコイル状の銅線も1本ずつ適度な長さで抽出し、

既存の非鉄選別機などや同社製のプラントを組み合わせば、鉄・非鉄・アルミ・ステンレスがそれぞれ自動的に選別される仕組みだ。1時間当たりの処理量は約2トンを誇り、充分に処理能力を発揮できる。また、本体部

込みや絡まりを抑制③破碎後のダスト成分を分離④破碎物の速やかな抽出によって、過粉碎を防止し、破碎負荷の低減ーが挙げられる。

コンプレッサー内部のコイル状の銅線も1本ずつ適度な長さで抽出し、